

0歳児見守りサポートシート 1 ■月齢：生後～4か月頃（ねんねの時期）

手足の動きが少しずつ活発になり、指や手をしゃぶる赤ちゃんもいます。首が少しずつしっかりしてきて声を出して笑うこともあります。

確認日： 年 月 日

援助 会員	共有	項 目	事故防止のポイント
☒	☒	足元など周囲を確かめて動く。	抱っこしている時は足元が見づらいので、段差や物につまずかないよう注意が必要です。 揺さぶられ症候群にも気を付けましょう。
☒	☒	ドアの開閉に気をつける。	赤ちゃんの小さな指はちょっとした隙間にも簡単に入りま す。開けっ放しにしておいたドアが風で急にしまるなどで、 指が挟まれてしまう事故が発生しています。
☒	☒	ベビーベッドの柵は上げておく。	赤ちゃんは思っている以上に成長が早いので、「生まれて間も ないから」「寝返りもしないから」と油断せず柵は上げましょう。
☒	☒	仰向けに寝かせ、常にそばについて 状態を観察する。	SIDS(乳幼児突然死症候群)は予兆や既往歴もない赤ちゃん の睡眠中に突然死に至る原因不明の病気です。 うつぶせ寝はSIDSの発症率が高いといわれています。 仰向けに寝かせ、赤ちゃんから目を離さないようにしましょ う。赤ちゃんの顔色や異変がわかる程度に部屋の明るさを 保ちましょう。
☒	☒	ミルクを飲ませた後はゲップをさせて から寝かせる。	ゲップは出ても、排気が十分でないと授乳したものをもどし てしまい、口の中に吐物が残っていると窒息事故につな がります。寝かせてから10～15分は特に気を付けて見ている ようにしましょう。
☒	☒	口や鼻を塞ぐものは周りに置かない。 敷布団は硬めのものを使用する。	寝ている時にぬいぐるみやガーゼ、スタイなどは置かない ようにし、目を離さずに様子を見るようにしましょう。
☒	☒	寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちて こないように安全を確認する。	テーブルの上や棚の中の物が落ちて赤ちゃんにあたり、外傷 や打撲を負ってしまう事故が発生しています。地震が起きた 際の転倒防止対策なども確認しておくとうれいでしょう。
☒	☒	口の中に入ってしまう小さな物を手の 届くところに置かない。	生まれたばかりの赤ちゃんでも直径3.9センチ以下の物は 口に入ってしまう。赤ちゃんが手にするおもちゃは、 破損がないか確認しましょう。
☒	☒	暖房(電気カーペットなど)の熱が直接 当たらないようにする。	長時間直接肌にあてたままにすると低温火傷を起こすこと があります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱で も重度の熱傷になる危険があります。
☒	☒	換気および室温などに注意する。	体温を調節する機能が未熟な赤ちゃんは、気温や室温と 一緒に体温が変化しやすいといわれています。 赤ちゃんが不快に感じたり、体調をくずしたりしないよう に配慮しましょう。 (適温：冬季は20～25℃、夏季は外気温より4～5℃低いくらい)

0歳児見守りサポートシート 2 ■ 月齢：3か月～6か月頃（寝返りの時期）

首がすわり寝返りやおもちゃを自分で握り遊べるようになります。からだつきに安定感が出てきて、すこしなら一人でお座りができてきます。

確認日： 年 月 日

援助 会員	共有	項 目	事故防止のポイント
☒	☒	熱い飲み物を飲まない。	赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりできるようになります。大人が持っている熱い食べ物や飲み物にも手を伸ばそうとするのでとても危険です。
☒	☒	おんぶ・抱っこをする時には、足元や周囲を確かめて動く。	おんぶ、抱っこをする時には低い位置で行い、安全確認してから行動するようにしましょう。 おぶって狭い所を通ると頭を入り口にぶついたり、抱っこして立ち上がろうとして机にぶつけてしまうことがあります。
☒	☒	ドアの開閉に気をつける。	赤ちゃんの小さな指はちょっとした隙間にも簡単に入ります。開けっ放しにしておいたドアが風で急にしまるなどで、指が挟まれてしまう事故が多発しています。
☒	☒	腕を強く引っ張らない。	ちょっと腕を引っ張った程度でも肘内障(亜脱臼)をおこしてしまうことがあります。急に引っ張ったりしないようにしましょう。
☒	☒	ベビーベッドの柵はいつも上げておく。	早いと5か月頃から寝返りが打てるようになるので、目を離すと危険です。赤ちゃんの発達は早く、転落事故はちょっと目を離れたすきに起こっています。
☒	☒	仰向けに寝かせ、常にそばについて状態を観察している。	SIDS(乳幼児突然死症候群)は予兆や既往歴もない赤ちゃんの睡眠中に突然死に至る原因不明の病気です。 うつぶせに寝かせた時のほうがSIDSの発症率が高いといわれています。仰向けに寝かせ、赤ちゃんから目を離さないようにしましょう。赤ちゃんの顔色や異変がわかる程度に部屋の明るさを保ちましょう。揺さぶられ症候群にも気を付けましょう。
☒	☒	寝ている時はスタイ(よだれかけ)を外す。	寝返りをしたり、ずり上がったりと、寝ている間も動き回っています。首回りのきつい服やスタイは、窒息をしてしまう危険があります。
☒	☒	角の鋭い家具、おもちゃなどがなく確認し、危険なものは片づけている。	動けるようになると、テーブルの角やヘリで頭をぶついたり、電気コードに触れたり、段差から落ちたりするので、赤ちゃん目線で安全対策をし、ケガを未然に防ぎましょう。
☒	☒	たばこ、薬、ライター、化粧品、洗剤、刃物などは、赤ちゃんの手の届かないところに置いている。	腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになると、なんでも口の中にいれようとします。口に入れると危険なものが手の届くところにないか、いつも気をつけて確認しましょう。
☒	☒	暖房器具、扇風機などは、赤ちゃんの手の届かないところに置いている。	好奇心旺盛なこの時期。「熱を発するもの」や「機器自体が熱くなるもの」を使っているときは、目を離さないようにしましょう。

0歳児見守りサポートシート 3 ■月齢：6か月頃～9か月頃【おすわり・はいはいの時期】

お座りが少しずつ安定してずりばいし始めます。自我が芽生えてきて後追いもするようになります。

確認日： 年 月 日

援助 会員	共有	項 目	事故防止のポイント
☒	☒	おもちゃはプラスチックの薄い突起や、とがった部分がないか確認している。	最近のおもちゃは安全性にも配慮がなされていますが、おもちゃが原因で様々な事故が起こっています。赤ちゃんは大人が思いもつかぬような遊び方をすることがあるので、赤ちゃんが熱中して遊んでいる時も見守り安全かどうか確認しましょう。
☒	☒	お茶やコーヒーなどをテーブルの端に置かない。	赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をかけてしまいます。赤ちゃんがテーブルクロスや電気コードを引っ張って、テーブルの上のものをひっくり返し、やけどをしてしまうことがあります。テーブルクロスの使用は控えましょう。
☒	☒	お座りをするそばに、角や縁のするどいものは置かない。	お座りのでき初めは特に不安定ですが、お座りができてくると次はうつ伏せに体位を自ら変えようとします。バランスを崩して倒れても大丈夫なように環境を整えましょう。
☒	☒	ポットや炊飯器、加湿器など、手の届かないところに置いている。	はいはいができるようになると、床の上に置いてあるポットにつかまり立ちをして、ひっくり返してお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の吹き出し口に、手や顔を近づけて火傷をしてしまうケースが多くなります。また余分なコードは巻き取っておきましょう。
☒	☒	つかまり立ちをしたり、伝い歩きをする時は、そばについて注意している。	テーブルやイスにつかまり立ちができるようになって、まだまだ大人が傍についていないと不安定です。バランスを崩して転倒し、テーブルの角で顔や口を打撲したり切傷したりすることもあります。不安定なこの時期は、特に気を付けて見守りましょう。
☒	☒	ビニール袋、ゴム風船は、手の届かないところに片づけてある。	ゴムやビニール袋を口に入れてしまうと窒息の危険があります。ゴム風船は割れてしまったものを口に入れてしまうことがあるので遊んでいても目を離さないようにしましょう。
☒	☒	仰向けに寝かせ、常にそばについて状態を観察している。	SIDS(乳幼児突然死症候群)は予兆や既往歴もない赤ちゃんの睡眠中に突然死に至る原因不明の病気です。うつぶせに寝かせた時のほうがSIDSの発症率が高いといわれています。仰向けに寝かせ、赤ちゃんから目を離さないようにしましょう。赤ちゃんの顔色や異変がわかる程度に部屋の明るさを保ちましょう。揺さぶられ症候群にも気を付けましょう。
☒	☒	階段や危険な場所には、入れない対策をしている。	はいはいができるようになると探索行動が活発になります。階段の上下に柵を付けることで転落事故の大部分は防げます。閉め忘れに注意してください。
☒	☒	暖房器具、扇風機などは、赤ちゃんの手の届かないところに置いている。	好奇心旺盛なこの時期。「熱を発するもの」や「機器自体が熱くなるもの」を使っているときは、近づけないようにし目を離さないようにしましょう。
☒	☒	ドアの蝶つがい、コンセントに指が入らないようにしている。	赤ちゃんの小さな手はちょっとした隙間にも簡単に入ってしまうので指が入らないようにガードをして防止しましょう。(引き戸にも注意)また、コンセントもいじったり物を入れたりすることもあるので、ガードしておきましょう。

0歳児見守りサポートシート 4 ■月齢：9か月～1歳頃〔つかまり立ちの時期〕

はいはいが上達し、つかまり立ちや伝い歩きを始め、好奇心が旺盛になって行動範囲がぐんと広がります。

確認日： 年 月 日

援助 会員	共有	項 目	事故防止のポイント
☒	☒	仰向けに寝かせ、常にそばについて状態を観察している。	SIDS(乳幼児突然死症候群)は予兆や既往歴もない赤ちゃんの睡眠中に突然死に至る原因不明の病気です。うつぶせに寝かせた時のほうがSIDSの発症率が高いといわれています。仰向けに寝かせ、赤ちゃんから目を離さないようにしましょう。赤ちゃんの顔色や異変がわかる程度に部屋の明るさを保ちましょう。揺さぶられ症候群にも気を付けましょう。
☒	☒	ボタンや電池や硬貨、ピアスなどの小物や、ラップなどを手の届かない所に置いている。	赤ちゃんは何でも口にしてしまうので、電池式のおもちゃや、直径3.9センチ以下の小物は手の届かない所に置きましょう。
☒	☒	階段の段差のあるところには、落ちないような対策をしている。	階段の上下階に柵をつけ、閉め忘れをしないようにすることで、階段からの転落事故をふせぐことができます。
☒	☒	棚の上に物を置かないようにしている。	今まで届かなかったところに手を伸ばし、物が落下しケガをしてしまうことがあります。割れるものや重いものは特に置かないようにしましょう。
☒	☒	テーブルクロスは 外している。	テーブルクロスを引っ張り、テーブルの上にある熱い食べ物や飲み物がこぼれて火傷をしてしまうことがあります。気を付けましょう。
☒	☒	浴槽や洗濯機に水をためたままにしている。また、浴室には一人では中に入れない対策をしている。	2～3cm程の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器にたまっている浅い水でも顔がつかって溺れてしまったりします。使い終わったら必ず水を捨てておくようにしましょう。
☒	☒	ブラインドのひもは首にひっかけてしまわないように、赤ちゃんが届かない高さでくくっている。	紐が首にからんでしまうと窒息につながる危険があります。首にかけられるエプロンやおもちゃのひもにも注意しましょう。
☒	☒	棚、テレビなどには、転倒防止策をしている。	つかまり立ちや歩き始めると行動範囲もますます広がってきます。全体重をかけて棚などにつかまり棚が倒れてしまう危険も出てきます。転倒防止策をして定期的にチェックをしましょう。
☒	☒	口に物をくわえて歩かないように見守っている。	歯ブラシ、箸、スプーンなどの長いものを口にくわえて歩くこと、また持ち歩くことは、とても危険です。持ったままで歩いて転ぶと、のどをついたりしますので、保管場所には気を付けましょう。
☒	☒	赤ちゃん用のイスは安定の良いものを使用している。	イスに座っているときテーブルを足で蹴った勢いでイスが倒れたり、イスに自分でよじ登ったり急に立ち上がって転落する事故があります。安全ベルトなどは正しく使いましょう。